

介護ビジネスの未来を創る—
週刊高齢者住宅新聞
 Elderly Press Newspaper
 2021年(令和3年)
6月2日
 第629号 (毎週水曜日発行)
 (株) 高齢者住宅新聞社
 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
 ☎03-3543-6852(編集部)
 発行人 網谷敏哉
 年間購読料 23,100円(送料別)
 ホームページ
<https://koureisha-jutaku.com>

市営団地改修、サ高住に

人口減少社会 日本
 CCRCのコンサルティング事業などを手がける、みんなのまちづくり(東京都中央区)は4月、長野県佐久市に移住者向けのサービス付き高齢者向け住宅「ホシノマチ団地」を開業した。空室が自立していた市営団地を転用。就労を支援するプログラムを開業するほか、インターネットの環境を整ったシェアオフィスを併設。入居者が動きながら暮らせる環境を目指す。

佐久市が移住者向けに ワーキングスペース併設



みんなのまちづくり 伊藤洋平社長

入居後も仕事で 生涯現役を目指す
 佐久市は、年間を通じて冷涼な気候で、自然豊かな環境、都心からの良好なアクセスが、移住者にとっての強み。また、地域医療を推進する佐久総合病院があり、住民、医療、市の三者連携による健康づくりを推進している。

その一方で「ホシノマチ団地」は、鉄筋コンクリート造の4階建て、築25年の市営住宅を利用。その一部である16室をみんなのまちづくりが借りて運営している。16室のうち、1・2階部分の8室をサ高住に改修。そのほかの部屋は、一般向けのセルフサービス可能賃貸として運営している。

特徴は、仕事をしながら暮らせる入居者を支援すること。その「1」が「ホシノマチオフィス」の開校だ。入居者は無料で「SNS」情報発信講座や、「介護初任者



▲ホシノマチ団地は、佐久市が「農村型」のCCRCを推進するエリアと位置づけられた白田地区にある

ト、地域のシルバリー材センターへの紹介などを行う。

伊藤洋平社長は、「クラウドソーシングなどを活用しつつ、自分の方のたい仕事で月2〜3万円ほどの収入を得ながら暮らす生活をイメージしています」と話す。

来年度中に全16室を満室にすることを目標として、SNSを活用して入居者を募集していく方針だ。

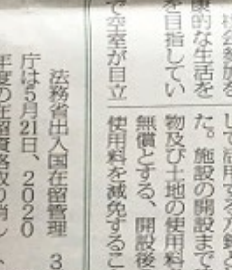
農村型CCRC 地域活性化を
 ホシノマチ団地が開業された背景には、佐久市が2015年から進めてきたCCRC、

在留資格取消、最多に 20年度 1210件

前年度比21.9%増
 法務省出入国在留管理庁は5月21日、2020年度の在留資格取り消し件数を公開。19年度から21.9%増の1210件を過去最多を記録した。理由が「取得した理由がなくなった」が最も多い。取り消しの理由は、50.9%が入管法第22条の第1項5号(正当な理由なく在留資格に抵触)となっていた。

「留学が524件(43.1%)と、理由なく在留資格に抵触」が最も多い。取り消しの理由は、50.9%が入管法第22条の第1項5号(正当な理由なく在留資格に抵触)となっていた。

ホシノマチ団地 事業の概略図



な多条件に、居室の改修、生活相談などのサービスの提供、管理運営を担う事業者を公募。みんなのまちづくりがそれに応募し、サ高住を運営することになった。加えて、生涯活躍が実現できるよう、仕事支援の体制も整えた。

伊藤社長は「ホシノマチ団地により地域住民から、「団地に活気が戻った」という声があがります。地域活性化させられるものとして、住民からも歓迎されています」と話した。

サ高住の部屋は2タに広がりそうだ。

新築の補助額減 転換加速要因に

国でも既設の住宅ストックの活用を促している。サ高住整備促進のための「スマートウエルネス住宅等推進事業」において、近年は新築の補助額の上限が下がっている。一方、改修の場合には上限が引き上げられている。

人口減少に合わせ、既存ストックを活用しサ高住に転換する取り組みは、今後さらに広がりそうだ。

TOPICS

- ニュース・総合 2・3面
- ユニマットRC
- プロスポーツチーム支援 医療事務、一括リモートで
- 介護Biz 5面
- 東日本福祉経営サービス 都内2棟目のサ高住
- 医療 7・8面
- 一関市初 在宅開設
- 特別インタビュー 10・11面
- 国際医療福祉大学 高橋泰教授
- 話題のケア現場 12・13面
- 認知症対応指導で職員育成 デイにPT・OT・ST
- 商材・サービス 14面
- カタログで購買一元化
- 関西 17・18面
- 契約書類を自動作成・保存
- ヘルスケアフォーカス Rehab 20面
- 第三者割当増資で7億円調達

6月2日以降の主な動き

- 6月2日(水)**
 ○厚生労働省「成年後見制度利用促進専門家会議第1回運用改善等WG」(オンライン開催)
- 6月3日(木)**
 ○高齢者住宅新聞社「コロナ時代の事業強化！介護施設の経営戦略とは？」(オンライン開催)
- 6月4日(金)**
 ○レバレッジズオフィスサポート「【医療福祉業界向けオンラインセ

- 6月8日(火)**
 ○かながわ福祉サービス振興会「介護に関する法令を学ぶ～根拠ある介護のために～」(オンライン開催)
- 6月9日(水)**
 ○高齢者住宅新聞社「介護業界のDX オンラインセミナー～ここから始まる！業務効率化・生産性向上の実現～」(オンライン開催)

介より始めよ
 5月25日、新型コロナウイルスで自宅療養中の30代女性が自宅で死亡しているのが発見された。報道がなされた。女性の部屋は「感染してからは「職場の人に感染させてしまったかもしれない」と、思い悩んでいること書かれた遺書のようなのが発見された。女性は自殺を図ったものとみられていた。▽誰かが新型コロナウイルスに感染するリスクに直面している。職場で感染者がしまった時、感染者に対する非難中傷が起きないようにする必要がある。▽高齢者の命を預かる介護職員は、特に「感染してはいけない」という思いが強い。故に、感染した場合の精神的なショックは大きい。▽仮に新型コロナウイルスに感染した場合、それに備えた対策が策定されていない。職員のショックを多少は軽減できる。職員のためにも、もろもろの計画を発生した時、感染者に対する非難中傷が起きないようにする必要がある。▽高齢者の命を預かる介護職員は、特に「感染してはいけない」という思いが強い。故に、感染した場合の精神的なショックは大きい。▽仮に新型コロナウイルスに感染した場合、それに備えた対策が策定されていない。職員のショックを多少は軽減できる。職員のためにも、もろもろの計画を発生した時、感染者に対する非難中傷が起きないようにする必要がある。